

SEINAN

広報 西南女学院

2011.10.27 VOL.81

広報 西南女学院 第81号
〒803-0835
北九州市小倉北区井堀1丁目3番1号
TEL.(093)583-5066
学校法人 西南女学院 広報課発行



仕える喜び

神への感謝

理事長 田中 綜二

2012年、西南女学院は創立90周年を迎えます。先人達が「建学の精神」のもと、大変な苦勞を乗り越え、試行錯誤を繰り返しながら、神の御言葉に従い物事を実行されてきました。故に現在の西南女学院があります。お導きを下さった神様と多くの先人達の祈りに支えられていたことに深く感謝をいたさねばなりません。

さて、創立90周年という節目の年の前に、西南女学院の歴史を振り返ってみたいと思います。私達の主であられるイエス・キリストは、1922（大正11）年4月18日、96名の新入生を、このシオンの丘に招いて下さいました。現在の南陵の地に、修業年限5力年の高等女学校課程の西南女学院（現中学校・高等学校）が設立されて以来、今日までの卒業生総数は、66,000名を超え、現在の学院全体の在籍者数は2,500名を超えるまでになっております。

主によって興され、主のお導きとお支えによって今日があります。特に、ここで、西南女学院の生みの親であるW・

H・クラーク宣教師のことを覚えねばなりません。クラーク先生は、キリスト教伝道にあたられた家系の三代目の宣教師でした。当時、熊本と京都と東京で宣教師活動をなされました。その働きの中で西南女学院が誕生しました。バプテストにおいて、最初の女子学校の設立を決めて下さった先生でもあります。先生のお母様も素晴らしい方で、西南女学院の設立に当たって、ジョージア州の諸教会の婦人部に働きかけてくださり、尊い建設資金を集めて下さったとも聞いています。その金額は、当時としては相当な金額で25,000ドルの基金となったのでした。先生のお母様は、それだけにとどまらず、日本のバプテスト教会の設立にも深い祈りと尊い献金をささげられました。クラーク先生ご家族の篤い祈りが常に西南女学院にささげられていたことを私達は忘れてはなりません。先生が引退後、ジョージア州のアトランタにお帰りになり、天に召される瞬間まで祈り続けておられた様子は、私達に対しての信仰の証でもありましよう。また、神の

ご加護の中で、96名の入学生から出発した西南女学院が、2,500名を超えるまでの学生・生徒・園児を擁する女学院となり、導き・支え・励まして下さった神様に、数々のご奉仕を下さった先人達に感謝し、天上の人々に証となるように務めねばならないでしょう。

現代は、正に価値の多様化の時代です。私学にとっては、混乱した時代とも言えます。しかし、伝統に堅く立ち、地の塩・世の光としての西南女学院であるために、輝くものを持ち続けなければなりません。お互い励まし合い、研鑽し合いながら、神に従って行く者であらねばならないと思います。「信仰に堅く立つ」ということが、教職員全員に今こそ問われていることであり、西南女学院の将来の基点がここに示されていると思っております。

キリスト教に基づいて教育がなされねばならないという信念と確信によって、先人達から引き継がれている建学の精神に立っているのです。

学校教育におけるキリスト教の伝道と言えども、学校礼拝があり、キリスト教関係の授業があり、日常的に宗教行事が行われています。私は、長く教会学校の教育のご奉仕をさせていただいてお

りますが、教会学校の状況も厳しい状況にあります。それは、子ども達が受験準備に追われ、小学生から高校生まで、塾・予備校・セミナーという諸要因が重なり合い、昔のように、日曜日に教会学校へ出席することすら困難になっていきます。このことは、キリスト教学校全般に亘って、少なからず、クリスチャンの教職員に補充に影響を与えていると思われま

す。また、各学校においては、役職人事等にも人が得られない苦悩に繋がっていると、思われ、養成機関の働きからも人的層が薄く、将来を危惧し、キリスト教教育を行うことが必ずしも十分とは言えず、簡単にいっていい傾向があるのです。しかし、今一度、私達が、どれだけイエス・キリストから信頼され、愛されているかを思い起こし、原点に目を向けて歩み出さない限り、女学院の将来が本当に心配になるのです。イエス・キリストは、私達が、幼な子のように、素直に従ってくるのを待っておられるのです。心配しないでイエス・キリストに全てを委ねて進んでまいりましよう。イエス様は、西南女学院の栄光を望み私達が起きるのを待っておられます。

聖句

イエスは彼らを見つめて、「それは人間にできることではないが、神は何でもできる」と言われた。

（マタイによる福音書19章26節）



中学校・高等学校の教育

中学校・高等学校教務部長 千葉 敦子

何よりもまず、東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。震災後、新聞やテレビなどで深刻な被害の状況が報道され、誰もが大きな衝撃と深い悲しみを感じました。その状況を目の当たりにした生徒たちは、何かとすぐに行動を開始しました。生徒会などが中心となって義援金を募る募金活動やバザーなどを自分たちで立ち上げ、多くの生徒がそれに参加しています。たとえ小さな力でも積極的に支援に協わっていかうとするその前向きな姿勢と行動力は、生徒たちの成長を感じさせるものでした。

西南女学院中学校・高等学校は「感恩・奉仕」をスクールのモットーに、自分自身を肯定的に捉え、他者への愛を育み、主体的に社会に貢献することが出来る生徒の育成を目指しています。キリスト教教育により生徒たちには、命や平和の尊さを知り、豊かな人間性を身に付けた自立した女性に育ってほしいと願っています。それと同時に、国際理解教育や統合学力教育に力を

注ぎ、「世界に向けて自分の未来を拓く人間」を育成するという学校教育目標の下、生徒たちが国際社会で真に通用する確かな学力を身に付けられる教育を実践しています。多国籍の外国人講師と英語で交流する「リビングトーキング」や英語だけで授業を行う「イマージョンプログラム」などの様々なプログラムを提供し国際理解教育を推進するとともに、生徒の学習へのモチベーションの向上を図っています。また、読む、聞く、話す、書く力をバランスよく伸ばす、質の高い英語教育により、生徒の英語コミュニケーション能力は大いに伸びており、特に高校生全員による英語スピーチ・ディベートコンテストでの生徒のパフォーマンスは学外からの参観者にも高く評価されているところとです。さらに、PISA型「読解力」育成を軸に、全教員が、教科の枠組みを越えて連携する取り組みを行うとともに、基本的な知識や技能の習得はもちろん、その知識・技能を活用する活動や探究的な学習を積極的に授業に取り入れ、生徒の思考力や表現力、問題解決能力を育成す

るための授業改善を日々行っています。生徒の学力を大いに伸ばすためには、教員が授業力を向上させ、できるだけ質の高い授業を行うことが求められます。そのために、全教員が互いに授業を公開し、それぞれの実践を検証し、研鑽を積む体制を常に整えています。また、生徒に対しては、今年度は特に主体的学習習慣の確立に重点を置いた指導を行っており、生徒が学習計画の作成や成果の振り返りなど、自分の学習をマネージメントする力をつけ、主体的に学習に取り組めるようサポートしています。さらに、模擬試験などのデータを詳細に分析し、生徒一人ひとりの学習課題を学

年および教科担当全員で共有し、指導に活かすことを目的とする学力・進路検討会議を定期的に持ち、一人ひとりを大切にすきめの細かい学習指導を行っています。これらを通して、大学入試問題への解答力を培い、高い進学実績を実現するとともに、将来、女性のリーダーとして社会で存分に活躍できる学力を育成しています。



大学短期大学の教育

大学短期大学部長 美山 泰教

西南女学院大学短期大学部は、今年で開学八十一年を迎えた。建学の精神「感恩奉仕」に基づき、本学では「キリスト教の愛の精神に基づいた教育により、知性と感性に優れた豊かな女性を育成する人間教育・人格教育の実践」を目的として、女性の高等教育に携わってきた。広報七十九号では、二〇〇九年度認証評価で無事に適格をいただくことができたこと、その中で優れた試みと評価を受けた領域などを紹介させていただいたが、今回は、次回の認証評価を受けるための向上・充実のための課題・今後の検討課題について述べさせていただく。先の機関別評価結果総評では、次のような評価を受けた。「両学科は、短期大学設置基準の定める教員数を十分満たしており、また学位、教育実績、研究業績、創作物発表など、短期大学の教員にふさわしい資質を有している。校地・校舎面積も短期大学設置基準を十分満たしている。設置設備も整っており、活用されている。単位取得状況については、シラバスで示された評価基準に従って適切に評価が行われている。アドバイザ制度を導入し、学生生活全般にわたる相談を手厚く行っており、退学等の減少につながる良い結果をもたらしている。入学に関する支援、学生支援、学生生活支援体制、進路支援、多様な学生に対する特別な支援がきめ細かく実

施されている。研究については、全体として活動は十分にされている。研究活動の活性化のための条件整備もおおむね適切に行われている」と。以上のような評価を受けているが、また、次のことが指摘されている。「向上・充実のための課題として、評価領域一、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標では、教育理念・教育目標を全学で共有するためにも「大学案内パンフレット」や「学生便覧」などにおいて文言を一致させておくことが重要であると考えられる。評価領域二、教育の内容では、学生による授業評価アンケートは、評価の実態を把握する点からも全科目で実施することが望まれる。学生の負担を軽減するため、質問項目の厳選を検討されたい。シラバス作成について、見やすさについてより一層工夫を図ることが必要であることから、シラバス作成委員会等を設置するなどして再確認の必要がある。評価領域六、研究では、教員個人の研究活動の状況は、広く社会に対し積極的に公開することが短期大学の使命として望まれる。評価領域八、管理運営では、学長の選考、役員補充の決定、重要事項の扱い等、これらで当該短期大学において慣例的に運営されてきていることについて、それぞれの規程との整合性を検討されたい。評価領域九、財務では、学校法人全体の財務状況は健全であるが、定員充足率を改善するなど具体的な計画を立て、短期大学部門の収支バランスを改善することが望まれる。評価領域一〇、改革・改善では、当該短期大学として独立した自己点検・評価組織のほか、全員が自己点検・評価に参加することを保障するシステムを構築する必要がある」と。以上のことから指摘されている。この結果を真摯に受け止めて、改善すべき点は早急に対処したい。第一回の認証評価からの検討課題として、①教職員の評価活動への意識改革および認証評価組織の確立②評価活動・認証評価のための組織の確立③短期大学の将来計画の策定④環境整備・物理的教育環境および人的労働環境⑤学生支援体制の確立。以上のことを次の認証評価受審のために検討・準備していきたい。

最後に、本学の体育系サークルをご紹介させていただきました。西南女学院大学・大学短期大学部では、バスケットボール部が九州大会でチャンピオンとなり、オールジャパニに出場し、排球部が西日本大会でベスト8となった。また、テニス部が個人の部で九州大会ベスト8となり、全日本学生選手権大会出場と輝かしい成績を収めている。皆様の温かいご声援があると部員達は大いに励まされるゆえ、今後とも体育系サークルを応援していただくことを願っています。

2012(平成24)年度 中学校・高等学校生徒募集要項
〒803-0845 北九州市小倉北区上到津1丁目10番1号 TEL.093-583-5800 FAX.093-591-0694

中 学 校	
募集人員	80名(うち英語受験型は10名程度)
出願資格	女子で2012年3月に小学校を卒業見込みの者
出願期間	2011年12月22日(木)・26日(月)・27日(火)及び2012年1月4日(水)・5日(木)(必着)
出願手続	1) 入学願書 2) 受験料 12,000円 以上を本校事務室に持参または郵送して下さい。
入学試験	日時 2012年1月9日(月) ① 4教科型 国語 9:00~9:50 算数 10:05~10:55 社会・理科 11:10~12:10 ② 英語受験型 国語 9:00~9:50 算数 10:05~10:55 英語 11:10~11:40 グループ面接 11:45~
合格発表	2012年1月12日(木) 本人宛に可否通知書を郵送いたします。
入学手続	2012年1月13日(金)~1月20日(金)まで
校納金	2011年度の参考例 1) 入学手続金 200,000円 2) 月額校納金 33,150円

高等学校(全日制普通科)	
推薦入学試験	一般入学試験
募集人員	30名 160名(推薦入学試験及び内部進学生を含む)
出願資格	合格決定後のクラス編成試験において、一定の基準点を満たせば特進コースに入学することができます。 女子で2012年3月に中学校を卒業見込みの者及び卒業した者 (1) 出身中学校長が責任を持って推薦できる者 (2) 5教科(国語・社会・数学・理科・英語)の学習成績が下記の基準すべてを満たす者 ①第2学年の評定平均値が3.3以上 ②第3学年2学期の評定平均値が3.3以上 (3) 大学進学を希望する者
出願期間	2012年1月12日(木)~1月23日(月)(必着)
出願手続	1) 入学願書 2) 誓約書 3) 調査書 4) 受験料 12,000円 以上を本校事務室に持参して下さい。
入学試験	日時 2012年1月24日(火) 試験科目 国語 9:40~10:10 数学 10:20~10:50 英語 11:00~11:30 面接 11:45~ 日時 2012年1月31日(火) 試験科目 国語 9:00~9:50 数学 10:05~10:55 社会 11:10~12:00 理科 13:00~13:50 英語 14:05~14:55
合格発表	2012年1月26日(木) 出身中学校長宛に可否通知書を郵送いたします。 2012年2月6日(月) 出身中学校長宛に可否通知書を郵送いたします。
入学手続	2012年1月31日(火)まで 第一次手続 2012年2月15日(水)まで 第二次手続 2012年3月21日(火)まで
校納金	2011年度の参考例 1) 入学手続金 202,000円 2) 月額校納金 23,450円

※中学校・高等学校とも入学試験の結果により、成績優秀者には授業料相当額の奨学金を支給します。

「真の学力」

中学校・高等学校広報部長

竹富 栄治

新学習指導要領が中学校は2012年4月から、高等学校は2013年度入学生から全面实施されます。新しい学習指導要領は、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視した内容となっています。西南女学院中学校・高等学校は2009年に出版された『これからの時代を生き抜く学力を育てる』(中留武昭

監修、西南女学院中学校・高等学校編著、学事出版)の中でも記しているように早くから「生きる力」に着目した教育を実践し、改善を重ねてきました。そういった意味では「生きる力」を育む教育はすでに充実にあるといえます。今回の学習指導要領の中で強調されている「活用」「言語教育」「読解力」「課題解決」などの言葉は生徒の間でも使われるほど本校では日常

化しています。どの場面を取り取って見ても、生徒が「生きる力」を養っているように、西南女学院では学校生活をマネジメントしています。「ゆとり」でも、「詰め込み」でもない「真の学力」を見据えた教育を続ける中、校外模試全国上位者も増えています。「真の学習モチベーション」を持った生徒が育っていることを私たちは実感しているところです。

本園の保育の特徴としましては、大きく二つのことが挙げられます。一つ目は創立以来キリスト教精神に基づき、神と人とに愛される人を育てることを保育の目的としたキリスト教保育の実践と、二つ目は3・4・5歳児の縦割りクラスを基盤とした、異年齢保育の実践です。

日々、子どもから子どもへと継承されていく尊さを思い、その子どもの成長の姿に感動を覚えました。幼児期には、子どもたちにいろいろな人間関係を体験してほしいと願っています。異年齢保育は、豊かな人間関係の広がりの中で、年齢の違う質の異なる他者と共存する良き環境を作り、その中で人と関わる力と心が育ちます。多面的に認められる機会が増え、自己肯定感と一人ひとりの安定感が増していくことを期待しています。

他者を思いやる心の大切さは、子どもたちが園で日々表れる聖書の御言葉の中にも表

れています。一人ひとりが神様に喜ばれる子どもとなるよう、異年齢でのキリスト教保育を日々実践してまいります。

今後も、ご支援、ご指導をよろしく願い申しあげます。

毎日の園生活の中で、子どもたちが登園して皆が揃った集まりをし、朝の礼拝を守ります。お祈りの中で神様とお話をし、月の暗誦聖句を唱え、讃美歌を歌い、週一回は聖書の話も聞きます。三年級の子どもたちがいるので、年齢別に聖句を唱えて讃美歌を歌いますが、お互いによく聞いているので、他年級のものもよく覚えていきます。翌年、進級して今まで年上の友だちが歌っていた讃美歌を自分が歌う番になった子どもが、「この曲覚えてる。〇〇くんたちが歌った」と言い、誇らしげに讃美していた姿がありました。異年齢で過ごす中で、

シオン山幼稚園の保育実践

大学短期大学部附属シオン山幼稚園 主任

野中 恵美子



礼拝で聖句を暗誦する子どもたち

2012(平成24)年度 大学短期大学部附属シオン山幼稚園児募集要項
〒803-0835 北九州市小倉北区井堀1丁目3番4号 TEL.093-583-5902

募集人員	5歳児 若干名 4歳児(2年保育) 15名 3歳児(3年保育) 40名	2006(平成18)年4月2日~2007(平成19)年4月1日生まれ 2007(平成19)年4月2日~2008(平成20)年4月1日生まれ 2008(平成20)年4月2日~2009(平成21)年4月1日生まれ
年齢	満3歳児入園について	12名 2009(平成21)年4月2日~2010(平成22)年4月1日生まれ 満3歳になった翌月より、入園できます。
願書受付	2011(平成23)年11月1日(火)午前9時~10時まで (1)入園希望者は入園願書に出願料3,000円を添えて、ご提出ください。 (2)受付票と入園手続き資料をお渡しします。	

同窓生 レポート

短期大学保育科 第31回卒業

山下 一恵 (社会福祉法人シオンの丘 愛の園保育園主任)

「あなたのお父さんは、4月からセイナンジョガクインに来ますよ。だから、あなたも一緒に小倉に来てくださいね。」めがねをかけ、背の高い外国の先生が6歳のわたしにニコニコ笑って話しかけました。その方は、当時の院長のギャロット先生でした。こうして、わたしは、兵庫県尼崎市から、北九州市小倉にやってきました。公立小学校を出て中学校は、父が女学院の短期大学でキリスト教を教えていたことから、当然西南へという感じで入学しました。中学では、尾崎圭一先生、



満島隆次先生の礼拝でのお話がとても楽しみでした。

中学、高校と個性豊かな友だちと共に、伸び伸びとした学校生活を楽しまました。短大保育科では、幼児教育についての学びを一生懸命致しました。保育科ABCクラスでは、予餞会でミュージカルをしました。一人ひとりが得意なことを担当し、ひとつのものを作り上げていくその過程がとても刺激的で、充実していました。

保育科での学びは、とても充実しており、子どもをどう捉えていくのか、具体的な活動を通しての実践の仕方や、ゼミで話し合いを重ねて、深く考えていく基礎を教えてくださいました。先日、保育科同窓会「要の会」に初めて出席致しました。懐かしい先生方、同期の友だちに会い、マロリーホールで礼拝し校歌を歌いました。8年通った西南女学院の校歌は、とてもなつかしかったです。短大卒業後



は、短大附属シオン幼稚園に就職し、園長の松隈玲子先生、保田井進先生、高橋さやか先生、岩阪憲和先生、黒岩英子先生のもと、職場の先生方と、毎日子ども一人ひとりについて話し合い、また自分の保育について振り返る時を本当に多く持てたことが今のわたしの宝物です。「対象に聴きなさい」この言葉が、わたしの保育の原点です。高橋さやか先生より、繰り返し教えて頂きました。

真先生にお会いし、先生の徹底的に子どもに寄り添う姿に深い感銘を覚えました。

幼稚園教諭の時期に、結婚、出産をし、2番目の子を出産する年に退職し、子育てに5年間専念したあと現在、社会福祉法人シオンの丘愛の園保育園に勤めております。

愛の園保育園は、西南女学院と密接なつながりがありますので、紹介させていただきます。1938(昭和13)年、西南学院英語教師ミス・エリザベス・T・ワットキンスと保母東間展子姉は、福岡の地行浜(現在のヤフードーム付近)に、貧しく放置された子どもたちのために、「愛の園保育園」の働きを始めました。大戦勃発に伴い、ミス・ワットキンスは、米国へ帰国を余議なくされますが、終戦後直ちに日本に戻り、1947(昭和22)年、北九州の西南女学院とシオン山教会で働くことになりました。そして西南女学院 原松太院長とキリスト

教主義の保育施設を興す必要を思い、大阪の戦災児収容所で働いていた東間展子姉を園長に招き、1948(昭和23)年、西南女学院マロリーホールの北西部(現在のシオン山幼稚園の敷地)において、宗教学者日本バプテストシオン山教会附属愛の園保育園の働きが始まりました。

1965(昭和40)年シオン山教会の隣に園舎を移し、1966(昭和41)年収容人数30名より60名に拡大致しました。近年施設の整備を急務として2010(平成22)年社会福祉法人シオンの丘 愛の園保育園を創設し、2011(平成23)年2月14日、国と北九州市から施設整備資金の補助をいただき、収容定員数90名を収容する新園舎を竣工し26名の職員で現在に至っております。

尼崎の地より小倉へ。西南女学院での学び、シオン山幼稚園での子どもたちとの出会い、そして、愛の園保育園でまた、保育について学びの時間が与えられていることに何か見えない糸がつながれているような気がいたします。西南女学院の生徒の方や、学生の方とは、園に実習に来られることで、つながりを持たせていただいています。実習生の



方々が緊張しながら部分実習をされる時、私自身も学生の時緊張して終わるまで頭が真っ白な状態になったけれども、最後に園の先生からのアドバイスで今後の課題が明確になっていったことを思い出し、少しでも前に進めるようにかかわっていきたくて思っております。現代は、社会の在り方が大きく変わる時で保育園の在り方も社会情勢の波にもまれております。イエスさまが私たち一人ひとりを大切に思い愛して下さったことに力を受けて、子ども一人ひとりが神によって命を与えられた者として、今の時を喜び感謝し自己充実して1日1日を過せるようにと願っています。神さまの守りの中で今までも多くの出会いを与えられたことに感謝し、自分に与えられた場所で、精一杯力を尽くしていきたいと思えます。

クローズアップ

大学人文学部観光文化学科の地域活動プログラム



学生に様々な実践の場を提供しています。

大学人文学部観光文化学科
学科長 飯田 一郎

観光文化学科は学生が基礎教養を構築したうえで、学生に実践の場を提供することを教育目的としています。教養なき実践は空疎で、実践の伴わない教養もまた意味を成さないからです。実践の場としてグリーンツーリズム、海外研修(カナダ、ニュージーランド、中国)、京都観光フィールドワーク、東南アジア・欧州観光実習、門司港レトロ口地区活動、北九州空港・整備場や地元工場見学、さらに学科独自のインターシップを学生に提供しています。最近では観光による地域振興が全国的に注目されるようになりまして、そこで地域活動の例として、「グリーンツーリズム」と門司港レトロ口地区」での活動を紹介したいと思います。

「グリーンツーリズム」は東峰村(旧小石原村、宝株山村)で夏の田植え、秋の稲刈りを体験し、地域の方たちとの交流を通じて学生達に農業を身近に知ってもらう活動です。廃校の小学校を村役場が改築した宿泊施設に滞在し、学生達は五右衛門風呂を新で沸かし、農産物の加工を習得したり、村議会議長の話を聞いたりして都市と農村の交流、農村振興を学んでいます。初めて田んぼに素足を突っ込み、漆黒の川面に舞う蛍を見た学生は帰宅して家族にその感激体験を語っているようです。グリーンツーリズムが最も発達している国はイタリアで、現地では「アグリツーリズム王」(農業とツーリズムの合



グリーンツーリズム

体)といわれています。農家はホテル並みの宿泊施設を備え、イタリアで発祥した「スローフード運動」を追い風に、ローマやミラノからの都市住民を多く受け入れて成功しています。国の補助と相乗効果を果たし、若者の農業離れを抑制することに貢献しています。

門司港レトロ口地区

「門司港レトロ口地区」では駅前の旧JRビルの一室を北九州市観光・コンベンション課より借り受け、木沢ゼミの学生がレンタルショップ「れとろこまち」を運営し、他のゼミ学生もレンタルのお手伝いをしています。玄関で着物姿の学生が観光客を出迎え、大正袴を貸し付け、着付けも手伝っています。袴をレンタルした観光客には、「大正浪漫パスポート」と「竹久夢二ひとこと箋」を推進しています。レトロ口地区を着物で散策できるとあって女性観光客の人気の的です。マスコミにも取り上げられ新聞にも幾度か「れとろこまち」の活動が紹介されてきました。雑誌では西

日本シティグループの機関紙『飛翔』5月号でレトロ口地区の目玉として紹介されました。また着物を着た本学学生が市の広報活動(全国カレー祭り、北九州物産展、大正100年オープンングセレモニー、アインシュタイン特別展100年記念行事、レトロ口ロッコ「潮風号」乗客50万人突破記念式典)に参加協力して、彩りを添えています。



観光文化学科は2006年度に新設された学科です。政府の観光立国構想のもと、他大学でも同様な学部学科が申請、設置されています。それだけに本学科では、自由闊達な雰囲気の中で新たな構想を練って、さらにチャレンジしてゆくつもりです。観光文化学科の応援をよろしくお願致します。

学生、ロールケーキ研究会とともに歩んだ 「ロールケーキ研究」の道のり

大学短期大学部生活創造学科
教授 池田 博子



「ロールケーキフォトコンテスト」団体特別賞受賞作品を囲んで

ロールケーキは、小麦粉、卵、砂糖の調理性を学ぶのに最適で、その配合による変化も興味深く、他の洋菓子とのコラボやトッピング等でバリエーションを楽しめ、創造力をかき立てられる洋菓子である。教育の一環としてロールケーキを教材としたのは私が「小倉ロールケーキ研究会」会員になってからである。この会はロールケーキを通して北九州・小倉のまちおこしを図る趣旨で2004年8月に発足した。研究会とタイアップして活動してきた内容を、年度を追って紹介する。①～④は「フードスペシャリスト」関連科目の中で行ったもので、講義で学んだ「商品開発」「官能検査」「店舗調査」「情報入手・活用」等の実践編である。

①2004年度：市販ケーキの官能評価結果およびアイデアロールを研究会主催の会で発表した。

②2007年度：研究会主催の「ロールケーキ講習会（本学で実施）にボランティアとして参加した。

③2008年度：「食文化演習」・「生活創造演習」（2011年度で本格的に研究出来る体制が整った。2月の発表会には研究会のメンバーを中心に外部から様々な分野の方が参加され、好意的な講評に学生は充実感と達成感を味わっている。

④2010年度：研究会主催の「ロールケーキフォトコンテスト」に応募し「団体特別賞」と「優秀賞」

NHKテレビでも紹介され、研究会のホームページにも詳しく掲載されている。この時のアイデアが取り入れられ「6月6日はロールケーキの日」期間中の限定商品として「小倉まきまき物語」が商品化された。

⑤2005年度：北九州モノレール20周年記念「小倉ロールケーキ列車」の運行を祝して、モノレール沿線をジオラマ風に製作した「北九州モノロール」は大学祭展示だけでなく、小倉伊勢丹2階正面入り口にも特別展示され、多くの人に見て頂いた。また、大学祭のイベント「ロールケーキ巻き巻き」で30枚近くのケーキを焼いて協力した。

⑥2006年度：研究会より3万円の補助金を受け、小倉北区の洋菓子店26の店舗およびアンケート調査に携わった。

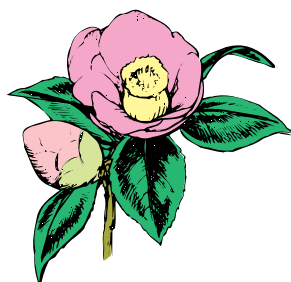


北九州PR創作ロールケーキ展示作品を囲んで

（学生の作品）を頂いた。また、大学祭ではロールケーキで作ったキャラクター等を展示した。

⑦2011年度：「6月6日はロールケーキの日」のイベントで「北九州PR創作ロールケーキ」13点をリバーウォーク1階に展示、人気投票に1041票もの投票があり、新聞やテレビに取り上げられた。大学祭では、「ロールケーキカフェ」でオリジナルのケーキを作って販売した。

研究会の協力を得、学生の感性に刺激され楽しみながら取り組んで来たこの研究も今年限りとなった。最後にふさわしい内容に仕上げたいと、今後の展開に思いをめぐらせている昨今である。



キリスト教センターだより



西南女学院キリスト教センターは、皆様の尊いご指導とご支援により8年目を迎えております。

「力は私たちの弱さの中で」を学院の年間主題とし、年間聖句は「わたしの恵はあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」というコリント12章9節を心に園児から生徒、学生、職員に至るまですべての者が、「感恩・奉仕」の精神に則り励んでおります。

4月には、新任オリエンテーション聖書学課を、一日に集約して持ちました。プログラムは、「学院の建学の精神と歴史」、「キリスト教の歴史と南部バプテスト」、「キリスト教」、「教会とキリスト教学校教育同盟」の学びの部と、創設者ロウ先生や歴代の院長などの眠る「西南の森」墓地（見学の「学内ツアー」、や親睦の部で構成されています。5月の墓前祈禱会では、思恩会副会長白石保子先生（元理事・中学校宗教主事・教頭）が、「私の立つところ」と題するご奨励を下され、田

中総二理事長、岩阪憲和院長、向雅彦事務局長等に続く先生方の祈りに導かれ、出席者一同が学院の使命への思いを新たに致しました。

年5回の聖書学課では、4月に岩阪憲和院長により「弱さ」の中に現れる「神の力」と題して、6月に植田浩司学長により「時」と題してご奨励がなされました。

キリスト教センターの働きの中心は「チャペル礼拝」です。中高では、改革をし、本年度から1年生から6年生まで、生徒全員で共に行うことにしました。6月には「ミッシェンマンズ」として、角本尚彦牧師（小倉バプテスト教会）、福島義人牧師（教団小倉東篠崎教会）、ロッキー&マラー先生ご夫妻（アロマミニストリーズ代表）を招き、また学内では新任の岡本大空先生（聖書科）などからメッセージを頂きました。神様に愛されているから自分が嫌な人を愛することの大切さが分かったとが、思考が自分を変えるが思考は学校礼拝や教会に行き得ていることを知っ

たとか、礼拝も他者と共にということが大切だと知ったとか、自分の基盤として平安を下さる神様の存在を心に留めたいなどの感想が、生徒から寄せられました。一人の特別講師から連続3日間メッセージを聞く「ミッシェンウイーク」は秋に予定されています。

大学・大学短期大学部では、加藤恵里也先生（音楽伝道師）により「神様との出会い」と題してラップを中心とした讚美とご講演があり、ジャンルを超えた讚美と信仰の体験談に多くの学生が信仰を持つ決心をしました。又、森本あんり先生（国際基督教大学教授）により「悲しみを引き受ける愛」と題し、失うものや悲しみに至るリスクを背負う愛の素晴らしさが語られ、学生や職員から感動したという感想が多く寄せられました。

森本先生がお手伝い下さるキリスト教の一コマを公開授業とし、これに地域の牧師、市民の方が多く参加し、「難しいことも、分かりやすかった」と学生が感想を述べました。

3月11日の東日本大震災の募金活動を、生徒も学生も職員も継続して行っています。小倉駅前で行う月一回の募金活動にも、これまで多くの学生と職員が参加しました。

本年度第一回キリスト教教育研究会では、平良憲誠牧師（平尾バプテスト教会）が、「若者が集う教会を目指して」と題し、10年足らずで若者が増え、全体礼拝出席も2倍となり、福岡の天神に「若者の教会」を開拓することになった貴重な経過を熱く分かち合われました。教会学校と並行して小グループ活動の働きが大きいとのことでした。

高校・大学ハンドベルクワイヤの地域サポート演奏はフル活動でクリスマス時期に集中します。学生部員は、4年生8名に対し1年生2名です。どうぞご加勢ください。

年明けの2月2日（木）には、日本の近現代文学が専門の佐藤泰正先生（梅光学院大学客員教授）をお迎えしてのキリスト教特別講演会を予定しています。

みことば

「弱い人を搾取るな、

弱いのをよこしまにこころ。」

（箴言22章22節）



学院宗教主任 古川 敬康

貧しく弱い者に正義を

3月11日の東日本大震災以後、経済的に弱っている人が多くなりましたが、聖書は、正義は守ると教えています。

そのことを教えている『箴言』から、社会的に弱い立場にある人に関して述べている言葉を共に学びましょう。

弱い人にとって貧困は破壊です（10・15）。弱い人を虐

げる者の行為はその人を創造された神様には不名誉なことです（14・31）。要は弱い人に心を近づけることです（19・4）。弱い人を憐れむ行動は、神様への「貸」となります（9・17）。それは、その叫びを聞くことなのです（21・13）。

弱い人に自分のパンを裂く人々は、祝福を受けます（22・9）。弱い人を搾取してまで富む人々は、欠乏を味わってしよ（22・16）。

自分が貧しくても弱い人を搾取したら同じです（28・3）。お金は、高い利息などを取って殖やしても、結局、弱い人を憐れむ人々に渡ると教えています（28・8）。金は自分を賢いように思わせますが、賢さのある弱い人には見抜かれています（28・11）。

悪い人は力任せに弱い人に襲いかかります（28・15）。弱い人の権利の訴えを、正しい人々は認め、悪しき人々は理解しません（29・7）。

『箴言』の作者は、弱い人に対して、社会のあるべき正義の基準で公平な判断を下す支配者の支配は、長く続き（29・14）、英知のある指導者のもとでは搾取が減る（28・16）と、教えています。

これらの教えは、私たちが教育で授ける必要な知恵を示唆しています。